

社保シリーズ

歯周治療用装置

8

社保研究部

今回は、有床義歯形態の歯周治療用装置を製作し、歯周基本治療以降にブリッジへ移行する場合について解説する。

症例解説

歯周治療用装置とは、重度の歯周病で長期の治療期間が予測される患者に対し、治療中の咀嚼機能の回復および残存歯への咬合の負担の軽減等を目的とするために装着する冠形態または有床義歯形態の装置をいう。歯周精密検査(P精検)を行った日以降に算定する。床義歯形態のものはP病名の他にMT病名が必要である。

重度の歯周炎とは、『歯周治療の指針2015』では「歯周ポケット深さが6mm以上」とされている。

症例では、 $\overline{3+3}P_3$ として重度であることを確認し、11月1日の初診時に、P精検とスクレーリングを実施し、まず前歯上下顎の動揺が著しい部位にTFixを装着している。歯周基本治療中のエナメルボンドシステムの場合は、装着料と装着材料料が算定できないため、簡単なもの200点を算定する。

症例では、初診日にP精検を算定している、歯周治療用装置の作製に着手する場合はP精検が必要となる(11/1)。

床義歯形態の歯周治療用装置は、欠損歯数にかかわらず1装置につき750点を算定する。症例は上顎左右にそれぞれ装置を装着したので750×2で算定している(11/10)。床義歯に付属する人工歯、クラスプ、バーなどは算定できるが、印象採得、咬合採得、装着料、修理、義管、歯リハ1(1)は算定できない。簡単に考えると、欠損歯数に関わらず750点を算定するパーシャルデンチャーということになる。すでに装着されている旧義歯を増歯するなどして床義歯形態の装置として利用する場合でも算定できる。また、患者の都合で未来院となった場合、装着予定日から1カ月以上経過した場合、未来院請求できる。

12月に入り、歯周治療が奏効し、歯周外科の必要がない状態を確認したため、ブリッジ作製を始めている。症例はブリッジであるが、有床義歯を作製する場合は、歯周治療用装置の装着後6カ月以内であっても認められる。

【歯周治療用装置についての疑義解釈】

(問) 床義歯形態のものを装着後6カ月以内の有床義歯の製作は認められるか。

(答) 認められる。

千葉県 1985年2月19日 社担

歯周治療用装置は、P精検を行った日以降に算定する。治療用装置にかかる印象採得、咬合採得は算定できない

歯周基本治療が終了する前でも装着できる

歯周治療用装置に付属する人工歯、クラスプ、バーなどは算定できる

作製予定部位、欠損部の状態、欠損補綴物の名称、設計の要点などを記載する

Rコートは生PZの実施後に1歯単位で算定できる

部位	傷病名	診療開始日
$\frac{763+467}{7}$	P	令和5年11月1日
$\underline{54 5}$	MT	令和5年11月1日
$\textcircled{4}5\textcircled{6}$	MT	令和5年12月15日
〔年齢〕74歳男性		
〔主訴〕歯が動いてかめない		
〔所見〕全体的に歯石沈着、歯肉に発赤・腫脹・動揺を認める		

月日	部位	療法・処置	点数
11/1		初診	264
	$\frac{763+467}{7}$	パノラマX-Ray バ電(所見略)	402
		P精検(検査結果別紙)	400
		$\overline{3+3}P_3$, TFix $\underline{54 }$, $\underline{5}$ 部に歯周治療用装置	/
		P画像 (10+10×4)	50
		歯管文(治療計画別紙) (80+10)	90
		SC (72+38×5)	262
		歯清 (72)	72
	$\frac{3+3}{3+3}$	TFix(エナメルボンドシステム) (200×2)	400
	$\underline{54 5}$	歯周治療用装置床 BT imp	/
11/10		再診 明細 (56+1)	57
	$\frac{763+467}{7}$	P精検(検査結果別紙) (400×50/100)	200
	$\underline{54 5}$	歯周治療用装置set (750×2)	1,500
		$\underline{54 5}$ 人工歯(硬質レジン)	73
		$\underline{63 46}$ 二腕鉤(不銹鉤) (163×4)	652
	$\overline{7-1}$	SRP (60×3+64×2+72×2)	452
11/15		再診 明細 (56+1)	57
	$\overline{1-7}$	SRP (60×3+64×2+72×2)	452
11/22		再診 明細 (56+1)	57
	$\underline{3+3}$	SRP (60×6)	360
11/29		再診 明細 (56+1)	57
	$\underline{76 467}$	SRP (64×1+72×4)	352
11月分 6,209点			
12/15		再診 明細 (56+1)	57
		歯管文(文書別紙) (100+10)	110
	$\frac{763+467}{7}$	P精検(検査結果別紙)	400
		歯周ポケット $\overline{3+3}$ 改善傾向 動揺+	/
		歯周外科の必要性認めない	/
		P画像 (10+10×4)	50
	$\textcircled{4}5\textcircled{6}$	補診(診断内容略)	90
	$\underline{4}$	生PZ(前装MC)	796
	$\underline{6}$	生PZ(FMC)	306
		ブリッジ支台歯形成加算 (20×2)	40
	$\underline{46}$	Rコート (46×2)	92
		連imp(寒天+アルジネート)	282
		BT (76)	76
		リテイナー 仮セ (100+4×2)	108
12/27		再診 明細 (56+1)	57
	$\textcircled{4}5\textcircled{6}$	Br set	150
	$\underline{4}$	12%金パラFMC set	1,543
	$\underline{6}$	12%金パラ前装MC set	2,145
		装着材料I(レセ) (17×2)	34
	$\underline{5}$	12%レジン前装金属ポンティック	1,579
		補管	330
		次月に $\textcircled{6}54\textcircled{3}$ Br製作予定	/
12月分 8,245点			